

	用語	よみがな	説明
あ行	後処理	あとしより	伐採後に残った枝や葉を集める、地表をきれいに整える等の作業。次の森林を育てる「再造林」にむけたステップとなる。
	筏流し	いかだながし	伐り出した丸太を筏にして川で消費地まで運んでいた昔の原木運搬方法。
	閾値	いきち	ある判断を下すための基準点や限界値を指す。例えば、車両系システムで路網から作業可能な距離は約100m。
	育林	いくりん	植えた木を適切に管理・育成して森林になるよう育てる作業。
	糸魚川－静岡構造線断層帯	いといがわし ずおかこうぞう せんだん そうたい	日本列島を南北に走る大規模な断層帯。地震や地質に関連する重要な地形ライン。
	ウィンチ	ういんち	ワイヤーロープを巻き取る機械であり、木材を引っ張って運ぶときに用いる。
	OODAループ (Obeserve, Drive, Decide, Act)	うーだるーぷ	観察・判断・決定・行動を素早く繰り返し、迅速に行動に移す意思決定方法。計画から始めるPDCAサイクルと異なり、状況の変化に即応できる特徴がある。(PDCAサイクル:計画、実行、評価、改善の4工程を循環させ、業務改善を図るマネジメント手法)
	ウッドショック	うっどしょくく	木材の供給が減少したり、価格が急上昇したりする現象。コロナ禍の2021年ごろ、世界的な住宅需要増加や輸送の混乱で発生。
	運材	うんざい	伐採した丸太を貯木場などへ運ぶ作業。
	SNS (Social Networking Service)	えすえぬえ す	インターネットで情報を発信したり、交流したりする会員制サービス。Facebook、Instagramなど。
	堰堤	えんてい	川の水や土砂をせき止めるための施設。土石流を防ぎ、川底が削られるのを防ぐなど防災上重要な役割を持つ。
	オクシズ	おくしず	静岡市内のうち、市街地を除く豊かな自然が残る山間地域の呼称。
	オクシズ材	おくしずざい	静岡市内の森林(オクシズ地域外も含む)から生産される木材。
オクシズパーク	おくしずぱー く	静岡市両河内地区に新しく作られる「遊び・学び・健康」をテーマにした交流施設。旧小学校跡地を使い、芝生広場や体験エリアなどを整備している。	
か行	カーボンオフ セット	かーぼんお ふせつと	CO ₂ の排出量を別の活動(植林やクリーンエネルギーの利用など)で埋め合わせる取り組み
	カーボンクレ ジット	かーぼんく れじつと	CO ₂ など温室効果ガスの排出を減らした量を数値化し取引できる仕組み。
	カーボン ニュートラル	かーぼん にゅーとらる	排出したCO ₂ を、森林の吸収などによって同じだけ取り除くことで、全体として排出量を実質ゼロにすること。

	用語	よみがな	説明
か行	海岸平野	かいがんへ いや	海岸近くに広がる平らな土地で、砂や泥が蓄積して形成される。
	科学的知見	かがくてきち けん	調査などの客観的なデータに基づき、科学的方法によって得られる信頼性の高い知識、見識のこと。
	拡大造林	かくだいぞう りん	天然林をスギ・ヒノキ人工林に大規模に転換する施策。戦後に集中的に実施された。
	がけ崩れ	がけくずれ	雨や地震で急斜面の土砂が崩れ落ちる現象。
	カスケード利 用	かすけーど りよう	ある資源(例えば木材)を、一段階の使用で廃棄するのではなく、用途や品質に応じて段階的に繰り返し利用することで資源を無駄なく使い切る。環境保護や資源循環を目指すために重要な取り組みとして、林業やバイオマス利用の分野で注目されている。
	架線集材	かせんしゅう ざい	ワイヤーロープ(架線)を張設し、その架線に木材を吊り下げて運び出す方法。古くは索道、近年はタワーヤーダやスイングヤーダを使用することが多い。
	河川の越水	かせんの えっすい	川の水が堤防を越えてあふれる現象。洪水の原因となる。外水氾濫のこと。
	下層植生	かそうしょく せい	森林の中で、大きな木の下に生えている低い草や小さな木などの植物。森林土を守る働きをする。
	貨幣評価	かへいひょう か	物・サービス・活動などの価値を貨幣という共通の単位で表すこと。「これはいくら価値があるか」と、お金で表現すること。
	間伐	かんばつ	森林内の一部の樹木を抜き切りし、本数を調整する作業。樹木が成長するにつれて森林内が混み合い、樹木の健全な成長が妨げられるのを防ぐために行う。単木間伐、列状間伐などの伐り方がある。さらに、目的に応じて、以下のような間伐が行われる。 保育間伐: 若い森林で、将来育てたい木が健全に成長できるよう、妨げとなる木を取り除く間伐。 環境間伐: 水源涵養や景観維持など、環境機能を高めるために行う間伐。 捨て伐り間伐: 伐採した木を林内にそのまま置き、運び出さない間伐。 搬出間伐: 伐採した木を材として利用するため、森林外へ運び出す間伐。
	クラスト層	くらすとそう	森の地面の表面にできる、細かい土粒子が固くなった層。雨が降ったときに水がしみこみにくく、土壌侵食を引き起こす。
	グリーントラ ンスフォー メーション (GX)	ぐりーんとら んすふおー めーしょん	温室効果ガスの排出削減と経済成長の両立に向けた社会変革の取組
	KPI	けーぴーあ い	Key Performance Indicator(キー・パフォーマンス・インディケター)の略称であり、重要業績評価指標を意味する。目標達成のために特に重要な数字や指標。感覚や印象ではなく、数字で進捗や成果を確認するための指標。

	用語	よみがな	説明
か行	減価償却費	げんかしょうきやくひ	建物や設備などの資産価値が使用や時間によって減っていくこと示した費用。
	兼業従事者	けんぎょうじゅうじしゃ	林業を生業としながら、他産業(会社勤務、商工業、サービス業など)にも従事している人。
	建材	けんざい	建物を作るための材料。建物の骨組みに使う材(構造材)など。
	原生林	げんせいりん	人の手がほとんど入らず、自然のままに保たれている森林。
	原木	げんぼく	加工されていない切り出したままの丸太。
	公益的機能	こうえきてききのう	森林が持つ、社会全体の役に立つ働き。空気や水をきれいにし、災害を防ぐなどの木材生産以外の役割を持つ。
	工芸	こうげい	木材やその他の材料を使って、美術的または実用的な製品を作る技術や手工業製品。
	高性能林業機械	こうせいのうりんぎょうきかい	従来機に比べ作業効率や安全性を高めた林業機械の総称。ハーベスタ、プロセッサ、スキッダ、フォワーダ、タワーヤダ、スイングヤダ等を含む。これらの機械は伐採・枝払い・玉切りなど、複数の作業を一つの工程でまとめておこなうことができる。
	合板	ごうはん	薄く桂むきにした木を木目が直交するよう何枚も重ねて接着剤で固めた板であり、家具や建物に使われる。
	広葉樹	こうようじゅ	葉が広く平たい樹木で、サクラやブナなどがある。温帯～熱帯に多く常緑・落葉の種類がある。庭木や家具材として利用される。
	広葉樹二次林	こうようじゅにじりん	人為的な伐採の後に、植栽ではなく、広葉樹が自然に再生した森林。
	国有林	こくゆうりん	国が所有している森林のうち、林野庁が管理する森林原野。
	5条森林	ごじょうしんりん	森林法第5条に基づく「地域森林計画」の対象となっている民有林。 ⇒「地域森林計画」「民有林」参照
	さ行	枯損木	こそんぼく
根系		こんけい	木の根全体の広がり。土壌中の水を吸収したり、地盤を安定させたりする役割を持つ。
混交林		こんこうりん	混交林とは、種類の異なる樹木が林冠層において混じって生えている森林のこと。針葉樹と広葉樹が混ざる場合を指すことが多い。
再生可能エネルギー		さいせいかのうえねるぎー	太陽光、風力、水力、地熱、生物由来のバイオマスなど、自然界で繰り返し利用できるエネルギー。化石燃料と違い環境への負荷が少ないとされている。
作業道		さぎょうどう	森林整備や木材の集材・搬出、主伐後の再造林等に継続的に用いる道(森林作業道)。林野庁の作設指針に基づき、地域条件に即して整備する。

	用語	よみがな	説明
さ行	山地災害	さんちさいがい	山や森林で発生する災害の総称。地すべり、がけ崩れ、土石流など。
	山地災害危険地区	さんちさいがい いきけんちく	山腹崩壊等で人家や道路に直接被害を与える可能性が高い地区で、山くずれが起こりやすい山腹崩壊危険地区、地すべりが起こりやすい地すべり危険地区、土石流が起こりやすい崩壊土砂流出危険地区の3種類に区分されている。地形や地質を調査し基準以上の危険度の場所を県が指定する区域で、指定にあたっては林野庁が示す要綱に基づいて判断される。
	山地災害防止機能	さんちさいがい いぼうしきのう	山地災害の要因となる表面侵食、土砂流出などを抑制し、林地・人家・インフラを守る機能。
	J-クレジット制度	じえいくれ じっとせいど	国が制度として正式に審査・承認した認めたカーボンクレジット(CO ₂ 削減の証明)を取引できる制度。
	地拵え	じごしらえ	苗木を植える前に伐採跡地の枝や残材を片付け、雑草木を除去し、植栽を行いやすくするための準備作業。後処理より一段階進んだ、植栽を行うための整地作業にあたる。
	市森林整備計画	ししんりんせい いびけいかく	市町村が森林法に基づき森林の保全や管理の方針をまとめる計画。林野庁が制度を定めている。
	静岡県森林クラウド公開システム	しずおかけ んしんりんく らうどこうか いしすてむ	静岡県が保有する森林計画情報(森林計画図・森林簿など)を、インターネット上で地図(GIS)として公開するシステム。
	静岡市環境学習指導員	しずおかし かんきょうが くしゅうしどう いん	静岡市の環境保護や教育活動を支える指導員。自然学習提供を通じて、子どもたちの環境意識を広めている。
	静岡市市民生きもの調査員	しずおかし みんいきも のちょうさい ん	静岡市が市民参加型で実施している自然環境保護活動の一環で、市民が地域の「生きもの」を観察し、そのデータを収集する役割を担う制度。
	静岡市森林環境アドプト事業	しずおかし んりんかん きょうあどぷ とじぎょう	地域住民や団体が森林を保全・管理する活動を支援する政策。地域ぐるみで環境問題を考え、市内で排出される二酸化炭素を削減・吸収する取り組み。
	地すべり	じすべり	雨や地下水などで斜面がゆっくりと斜面下方に移動する現象。移動する土の量が大きいため、甚大な被害を及ぼす。
	自然共生サイト	しぜんきょう せいさいと	環境省が認定する、生物多様性の保全に取り組む区域。地域生物多様性増進法に基づき、企業や自治体の活動計画により維持・回復・創出を行う場所が対象。
自然公園	しぜんこうえん	自然公園法に基づき指定される、国立公園・国定公園・都道府県立自然公園の総称であり、優れた自然風景地を「保護しつつ利用する」ことを目的とした制度。市内には南アルプス国立公園、日本平、三保松原県立自然公園、奥大井県立自然公園がある。	

	用語	よみがな	説明
さ行	しぜんたんけんてちょう	しぜんたんけんてちょう	静岡市が運営する、子どもから大人までが、静岡市の自然・生きもの・環境について学び、調べ、体験するための環境学習ウェブサイト。
	下刈り	したがり	苗木の周りに生えた草を刈り、苗木が育ちやすくする作業。
	車両系システム	しゃりょうけいしすてむ	林業で使うトラックや重機などを使い、架線を使用せずに林業の作業を行う作業システム。
	収穫期	しゅうかくき	収穫に適した主伐期。
	集材	しゅうざい	伐倒・造材した材を集積地点(土場)まで移動・集める作業。地引集材・架線集材・機械集材等の方法がある。(造材:木を切って枝を落とし、丸太として使える形にする作業のこと。)
	集積	しゅうせき	伐採・造材した木材や資材を土場等にまとめる工程。搬出効率の向上に資する。(造材:木を切って枝を落とし、丸太として使える形にする作業のこと。)
	集積計画	しゅうせきけいかく	森林所有者が自分で管理できなくなった森林について、市町村がその森林の経営管理を引き受けることを決める計画。
	樹種	じゅしゅ	木の種類。スギ、ヒノキ、カラマツ、クロマツ、ブナ、ミズナラ等。
	主伐	しゅばつ	人工林において、伐採区域内の立木を一体的に伐採し、その後、次の世代の森林へ更新(再造林等)することを前提とした伐採。
	主伐期	しゅばつき	人工林が十分に成長し、木材として本格的に利用(主伐)することが可能となった時期。
	循環管理	じゅんかんかんり	森林資源を育てて伐って活用し、また跡地に森林を再生させるという「循環」の仕組みを意識した管理方法。持続可能な森林経営を目指す考え方。
	蒸発散	じょうはっさん	植物や土壌から水分が空気中に移動していくプロセスで、液体の表面から気化が起こる現象(蒸発)と、その水蒸気が放出される現象(蒸散)が合わさったもの。
	食害	しょくがい	農作物や樹木などが害虫や野生動物などによって食われてしまうこと。シカの食害の場合、樹皮、新芽、若葉などを食べることで樹木の成長が阻害され、森林の健全な更新や育成に影響を及ぼすこと。
	食害対策	しょくがいたいさく	シカ等の野生鳥獣による樹木の枝葉・樹皮の摂食(食害)から、森林の更新・成長・公益的機能を守るために行う一連の対策。柵をつけたり、鳥獣の数を調整したりする。
	植栽	しょくさい	伐採跡地などに、人為的に苗木を植え付け、次の世代の森林を成立させること。
除伐	じよばつ	目的の木の成長を妨げる雑木や弱った木を取り除く森林作業。若い人工林で行い、光や栄養が確保され健全な成長を促す。なお、除伐は主に初期の育林段階で不要木を取り除く作業であるのに対し、間伐は成長してきた木同士の混み合いを調整する作業。	

	用語	よみがな	説明
さ行	人工林	じんこうりん	人工造林（苗木の植栽、種子の播き付け、挿し木等の人為的な方法）によりつくられた森林。
	薪炭林	しんたんりん	薪や木炭の生産を目的とする森林。
	針葉樹	しんようじゅ	裸子植物球果植物の樹木の総称で葉が針のように細いことから呼ばれる。多くは常緑で、寒冷・乾燥地でも育ちやすく建材として広く利用される。静岡県ではスギ、ヒノキ、クロマツ、カラマツ、シラビソなどが多い。
	森林カーボンクレジット	しんりんかーぼんくれじつと	森林がどれだけCO ₂ を吸収したかを、決められた方法で確認し、その吸収量を価値として売買できるようにした権利。
	森林環境譲与税	しんりんかんきょうじょうよぜい	喫緊の課題である森林整備に対応するため、2019(令和元年)年度から開始され、市町村や都道府県に対して譲与されている。市町村や都道府県それぞれの地域の実情に応じて森林整備及びその促進に関する事業を幅広く弾力的に実施するための財源として活用される。
	森林環境税	しんりんかんきょうぜい	森林の保全や整備を目的として、国民が負担する税金。林業の活性化や森林管理に使われる。
	森林環境保全直接支援事業	しんりんかんきょうほぜんちよくせつしえんじぎょう	森林環境保全直接支援事業とは、林野庁が実施する制度で、森林を集約し計画的に森林整備を行う取組を対象に、地拵え・間伐・作業道整備など、森林の保全に必要な施業を直接支援するものである。
	森林経営	しんりんけいえい	木材生産に加え、水源涵養、防災、生物多様性の保全など森林の公益的機能を含め、森林を総合的・持続的に管理する考え方や取組を指す。
	森林経営管理制度	しんりんけいえいかんりせいど	手入れ不足の森林について、市町村が森林所有者から経営管理の委託(経営管理権)を受け、適地は林業経営体に再委託し、不適地は市町村が公的管理する制度。
	森林経営計画	しんりんけいえいけいかく	「森林所有者」又は「森林の経営の委託を受けた者」が、森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する計画。5か年の計画を作成する。
	森林経営計画策定林	しんりんけいえいけいかくさくていりん	適切な管理や利用を目指して森林経営計画が立てられている森林。計画的な伐採や再造林が行われる。
	森林蓄積量	しんりんちくせきりょう	森の中にある木の体積を全て合わせた量。森がどれだけ木を蓄えているかを示す。森林簿から算出することが多い。
森林認証	しんりにんしょう	持続可能な森林管理(FM)と製品の管理(CoC)を第三者が審査・認証する仕組み。FSC、PEFC/SGEC等。	
森林簿	しんりんぼ	県が地域森林計画を策定するために、森林を林班・小林班等で区分し、所在・所有者・面積・林齢・樹種等の現情報を整理した台帳。森林計画図(森林の位置や範囲を地図で示し、森林管理の計画に使うための図)と対応して活用される。	

	用語	よみがな	説明
さ行	森林法	しんりんほう	森林を守ったり、利用したりするための法律。森林計画、保安林、その他の森林に関する基本的事項を定め、森林の保続培養と森林生産力の増進を図り、国土の保全と国民経済の発展に資することを目的とする。
	水源涵養機能	すいげんかんようきのう	降雨を森林土壌へ浸透・貯留させ、河川流量の変動を緩和し、洪水・渇水を抑制する機能。
	水資源貯留	すいしげんちよりゅう	森林が雨水を地中に蓄え、地下水としてため込む機能。水源涵養機能とも呼ばれる。
	スイングヤーダ	すいんぐやーだ	山で伐採した木をワイヤーで引っ張って効率よく木を集めるための林業用機械。
	生物多様性	せいぶつたようせい	生きものの多様さを表す概念であり、生態系の多様性、種の多様性、及び遺伝子の多様性の三つのレベルから成る。
	施業	せぎょう	本資料では森林施業のこと。森林の育成、保護及び伐採等を計画的に実施するために行う一連の作業や管理行為を指す。
	専業従事者	せんぎょうじゅうじしゃ	林業の場合、森林管理や木材生産を生業とする人を指す。
	全国森林計画	ぜんこくしんりんけいかく	森林法の規定に基づき森林・林業基本計画に即して農林水産大臣が定める計画。国の森林政策の方向や地域森林計画の規範となる。
	扇状地	せんじょうち	山地から平野へ流れる川が作る扇形の堆積地。農業や住居地としても使われる。
	早生樹(キリ、センダン)	そうせいじゆ(きり、せんたん)	成長の早い木のことで、キリやセンダンなどが代表。農林水産省は「成長が早く早期収穫が見込める樹種」としている。
	草本	そうほん	茎が木のように固くならず毎年地上部が枯れる植物。草本植物として分類される。
	造林	ぞうりん	新たに木を植えて、育成すること。
	た行	素材	そざい
素材生産		そざいせいさん	木材の原材料を生産すること。現場で素材に加工して、原木市場や製材工場まで運搬し販売する。
大径木化		だいけいぼくか	樹木が大きな直径を持つように育てること。樹木を長期間にわたり適切に育林することにより、幹の直径が大きくなること。これにより、木材としての利用価値が向上する。
代替法	だいたいほう	環境保全やCO ₂ 削減のために使われる代替りの技術や行動。例えば、再生可能エネルギーの活用など。	
立木価格	たちきかかく、りゅうぼくかかく	立っている木の価値を評価した金額。伐採前の木材取引で使用される。	

	用語	よみがな	説明
た行	脱炭素	だつたんそ	CO ₂ の排出を抑え、地球温暖化を防止する動き。代表的な取り組みとして再生可能エネルギーや植林活動などある。
	団粒構造	だんりゅうこうぞう	土の中の小さな粒が集まって、団子のようなかたまりになっている状態。水や空気が通りやすく、植物が育ちやすい土の特徴。
	地域森林計画	ちいきしんりんけいかく	全国森林計画に即し、都道府県知事が5年ごとに立てる10年計画。民有林の整備目標や施業方針等を定める。
	治山	ちさん	山が崩れたり、土砂が流れたりするのを防ぐために行う工事や活動。
	地産地消	ちさんちしょう	地元で生産された食材や資源を地元で消費すること。森林資源の場合、建築材として地元の木材を使うなど。
	稚樹	ちじゅ	森林内で自然に生まれた小さな幼木。林野庁では将来の森林を構成する重要な要素とされている。
	沖積平野	ちゅうせきへいや	川が運んできた土砂が積もってできた平らな土地。
	潮害防備保安林	ちようがいぼうびほあんりん	津波・高潮の勢いを弱め、塩害や飛砂を防止する目的で指定される保安林の一種。
	直轄地	ちよっかつち	江戸時代に幕府が直接管理していた土地。
	突板	つきいた	薄くスライスした木材を使い、家具などの表面に貼り付けるための材料。見た目が美しく経済的。
	デジタルサイネージ	でじたるさいねーじ	電子ディスプレイを利用して情報を表示する広告や案内板。
	適期	てつき	森林作業(伐採、植林、間伐など)を行うのに最も良いタイミング。適期を守ることで、作業の効率が向上し、木材の品質や森林の健康を保ちながら、森林の持続可能な利用が実現可能となる。
	天然更新	てんねんこうしん	人工的に木を植えるのではなく、自然に種が落ちて育つなどにより、森林が更新すること。
	天然林	てんねんりん	人などにより植えられたものではなく、自然の更新によって成立した森林を指す。
	倒木	とうぼく	風、雪、地震等の自然要因により、立っていた木が根元から又は途中で倒れた状態の木を指す。
	土砂崩れ	どしゃくずれ	集中豪雨や地震等によって不安定になった斜面が崩れ落ちる現象。崩れる深さによって浅層崩壊と深層崩壊に分けられる。
土砂災害警戒区域	どしゃさいがいけいかいき	土砂災害が発生するおそれのある区域のうち、人的被害や建物被害が想定される場所について、避難計画や防災対策を進めるために指定される区域。地形・地質などの調査に基づき、土砂災害防止法に沿って都道府県が指定する。	

	用語	よみがな	説明
た行	土壌の浸透能	どじょうのしんとうのう	土が雨水などを地中に吸い込む能力。土壌の質や構造によって能力は異なる。
	土石流	どせきりゆう	大雨などで土や岩が大量に流れてくる災害。河川や谷で発生しやすい。
な行	ナラ枯れ	ならがれ	ナラやカシなどの木が、ナラ菌とそれを媒介するカシノナガキクイムシによって枯れてしまう現象。
	ナラ枯れ対策	ならがれたいさく	被害木の伐倒・処理、薬剤処理、被害の早期発見・監視など、ナラ枯れの発生及び拡大を抑制するために実施される一連の防除及び管理対策を指す。
	2050年カーボンニュートラル	2050ねんかーぼんにゆうとらる	2050年までに二酸化炭素(CO ₂)の排出量を抑え、吸収量と相殺して二酸化炭素(CO ₂)排出量を実質ゼロにしようとする目標。地球温暖化を防ぐために重要な取り組み。
	農地	のうち	農地に樹木が生えて森林のようになることもあるが、農地法で「耕作の目的に供される土地」と定義され、作物栽培のための土地を指す。
	農道	のうどう	農作業や資材・農産物運搬のために整備される農業用道路で、農林水産省が所管している。
は行	バイオマス	ばいおます	生物由来の資源のうち、石油等の化石資源を除いたものであり、木材のほか、ナタネやダイズ等の農作物、家庭ごみ、建築廃材や古紙等がある。
	バイオマス発電施設	ばいおますはつでんしせつ	木材、野菜の廃棄物、動物の糞、食品廃棄物などのバイオマス(生物由来の資源)を燃料として利用し、電気を作る発電施設。廃棄物や植物などをエネルギー源として有効活用するため、環境にやさしい再生可能エネルギーの供給に重要な役割を果たす。
	伐採	ばっさい	立木を切り倒す作業。森林施業には主伐・間伐・択伐等の方法があり、主伐後は造林等により適切に更新する。
	伐倒駆除	ばっとうくじょ	病害木を伐って取り除くこと。マツ枯れやナラ枯れ対策で最も重要な対策。
	搬出	はんしゅつ	山土場から原木市場・工場等へ材を運ぶ工程。路網整備と機械化により効率化を図る。
	PDCAサイクル	ぴーでいーしーえーさいくる	計画(Plan)・実行(Do)・評価(Check)・改善(Action)を繰り返す、仕事や活動をより良くしていく方法。
	挽物	ひきもの	ろくろや旋盤(せんばん)などの機械で材料を回転させながら刃物を当てて削り出し、椀や盆、家具の脚など円形や左右対象の形に加工する技術やその製品。
	標準伐期齢	ひょうじゅんばっきれい	樹種・地域の条件に応じて標準的な主伐の時期(林齢)として定める指標。近年、スギ・ヒノキは長期化の傾向が示される。
	表層崩壊	ひょうそうほうかい	山の表面近くの土砂が、急斜面で雨や雪解けによって崩れ落ちる現象。特に豪雨時に起こりやすい。

	用語	よみがな	説明
は行	病虫害対策	びょうちゅうじゅうがいたいさく	森林を守るため、樹木を食害する害虫や獣害を防止する取り組み。樹木に損害を与える病虫害を防除したり、鳥獣による食害等を防止する取り組み。
	表土流出	ひょうどりゅうしゅつ	雨により斜面からの表層土壌の流出が進むこと。
	表面侵食	ひょうめんしんしょく	雨や風によって地面の最表層が削られる現象。裸地斜面で進行しやすい。
	風致地区	ふうちちく	景観保護や自然環境の保全を目的として法律で指定された区域。美しい環境を守るために建築制限が課される。市内では有度山をはじめ、市街地景観の背景となる賤機山や谷津山、海沿いの大浜・久能・三保など10箇所2,760haが指定されている。
	風倒木	ふうとうぼく	強風や台風で倒された木。倒木による二次災害や資源の損失を防ぐため早急な処理が必要。一方、林内においては倒木の残置が植生回復を促進することもある。
	賦課徴収	ふかちょうしゅう	税金や負担金などについて、行政がだれがいくら負担するかを決め、その金額を納めてもらう一連の手続きを指す。
	複層林化	ふくそうりんか	森の中に背の高い木と低い木が何層にも重なって生えている森林にすること。様々な生き物が住みやすくなり、森の働きも高まる。これに対し、単層林は木の高さがそろい、階層がない構造の森林をいう。
	プレカット	ぷれかっと	工場で木材をあらかじめ部品ごとに加工すること。建築現場で効率的に組み立てることができる。
	文化財	ぶんかざい	歴史的、芸術的、文化的価値を持つ建物や工芸品、土地などの総称。特に自然を守るための環境指定地も含まれることがある。
	保安林	ほあんりん	水源涵養、土砂災害防止、生活環境の保全等の公益目的のため、農林水産大臣又は都道府県知事が指定する森林。伐採・土地形質変更等に制限。
	保安林機能	ほあんりんきのう	森林が持つ、崖崩れや土砂流出を防ぐ環境保全機能。洪水防止や水源涵養、潮害防備機能も含まれる。
	崩壊地	ほうかいち	雨や地震などで土や岩石が崩れ、地形が変わってしまった場所。
	放任竹林	ほうにんちくりん	適切な管理がされず、繁茂しすぎてしまった竹林。生態系バランスの崩壊や災害につながるため対策が必要。
防鹿柵	ぼうろくさく	シカ等の食害から森林を守るために設置される柵。植林地や農地保護に役立つ。	
ま行	曲物	まげもの	木の薄板を曲げて作る工芸品や道具。たとえば、おひつ(炊飯器の容器)など。
	マツ枯れ	まつがれ	マツノザイセンチュウという線虫によって引き起こされるマツ類の集団枯死のこと。マツノマダラカミキリによって運ばれるマツノザイセンチュウがマツの幹内に入ると、幹内で水を吸い上げることができなくなり枯死に至る。マツ材線虫病。

	用語	よみがな	説明
ま行	緑の雇用	みどりのこよう	林業への新規就業者を確保・育成するため、研修の実施や経費支援等を通じて、林業分野での就業を促進する林野庁の取り組みを指す。
	緑の社会資本	みどりのしゃかいしほん	森林、公園、緑地等の自然環境が有する機能を、社会や地域の基盤として活用する考え方及びその資源を指す。
	南アルプス ユネスコエコパークミュージアム M:I	みなみあるぶすえこぱーくみゅーじあむ M:I	南アルプスの自然や文化について楽しく学べる施設。標高3000m級の山々の絶景を大画面で体感できるパノラマシアターや、井川地域の暮らし・歴史を紹介する展示がある。自然の大切さや地域の魅力をわかりやすく伝える場所。
	みほしるべ	みほしるべ	静岡市三保松原文化創造センター。名勝であり世界遺産でもある三保松原の歴史・文化・自然を展示と映像で紹介し、松原保全の重要性を伝える施設。
	三保まつしらべ	みほまつしらべ	静岡県が作成し静岡市が運用する三保松原のマツ管理システム。スマホアプリを使って誰でもマツの異変を通報できる。
	民有林	みんゆうりん	国有林以外の森林。個人、会社、社寺等が所有する「私有林」と、都道府県、市町村等が所有する「公有林」がある。民有林は森林法第5条の地域森林計画の対象であるため「5条森林」と呼ばれる。
	無立木地	むりゆうぼくち	現時点で立木や竹林が存在しない状態の土地。伐採跡地などで一時的に樹木が生育していない場合を含む。
	名勝	めいしょう	文化財保護法に基づく、日本にとって芸術上・観賞上価値の高い庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他。文化庁および地方公共団体が指定する。
	木材加工	もくざいかこう	木を切ったり削ったりして、家具や建物などの製品を作ること。
	木材産業	もくざいさんぎょう	森林から伐り出した木を加工し建材・家具・紙などに使う産業。製材・合板・流通などを含む。国産材の活用や環境配慮が重要な課題となっている。
	木材チップ	もくざいちっぷ	木材を細かく砕いた小片。紙の原料や家畜の飼料、燃料等に使う。
	木材の安定供給	もくざいのあんていきょうきゅう	必要なときに木材を安定して届けること。量、質も需要に応じて必要な木材を継続的に供給すること。
	木材輸入自由化	もくざいゆにゆうじゅうか	日本は1960年代に木材の輸入規制を撤廃し、海外の木材を自由に輸入できるようになった。これにより木材価格が下がり、日本の林業が厳しい競争にさらされた。
	木本	もくほん	幹が木質で固く毎年成長する植物。樹木として分類される。
	森づくり県民税	もりづくりけんみんぜい	荒廃した森林を再生し、水源のかん養や山地災害の防止など「森の力」を回復させるため、静岡県が導入している目的税。主に「森の力再生事業」として、所有者による整備が困難で公益性の高い森林整備に活用されている。
	山元	やまもと	山、森林の所有者。

	用語	よみがな	説明
や行	有林地	ゆうりんち	樹木(立木)が集団として生育している土地(立木地)をいう。森林のこと。
	ユネスコエコパーク	ゆねすこえこぱーく	生物多様性の保全と自然資源の持続可能な利用を両立させ、自然と人間社会との共生を目指す地域として国連ユネスコによって認定されたエリア。市内には南アルプスユネスコパークがある。
ら行	流木	りゅうぼく、ながれぎ	流木とは、洪水や土石流、斜面崩壊などにより流域で発生し、河川や溪流、海域を流下または漂流する木材(立木・倒木・伐採木など)をいう。橋梁の閉塞や氾濫を引き起こすなど、災害時に被害を拡大させる要因となる。
	林冠	りんかん	森林の最上部にある葉や枝が茂った部分。林冠は日光を受ける役割を果たし、森林の生態系に大きな影響を与える。
	林業機械	りんぎようきかい	林業の作業で使う機械。
	林業技能検定制度	りんぎようぎのうけんていせいど	林業に携わる人の技術力や知識を試験によって認定する制度。林業従事者の能力向上や安全性向上に役立てられている。
	林業経営	りんぎようけいえい	木材の生産を主目的として行う事業活動で、植林、保育、間伐、伐採、販売など、林産物の生産・収益に直接関わる経営を指す。
	林業事業体	りんぎようじぎようたい	林業の事業を行うために組織された企業や団体。林業経営体や行政等から委託を受け、伐採や造林などの作業を行う。
	林型	りんけい	森林をどんな姿に育てるかという森の目標像。林野庁資料では用途に応じた型を示している。
	林床	りんしょう	林内の地表部のこと。
	林床被覆率	りんしょうひふくりつ	森の地面(林床)が、草や低い木などの植物でどれくらい覆われているかをパーセントで表したもの。森林の保全状況や下層植生の発達度、土壌侵食防止機能等を評価するために用いられる。
	林地台帳	りんちだいちょう	市町村が作成・公表する、森林の土地の所有者や境界等の情報を統一基準で整備する台帳。施業集約化・適正な森林整備に資する。
	林道	りんどう	森林の整備や林産物の搬出のための道路。幹線林道・支線林道等と森林作業道を有機的に組み合わせて路網を構成する。
	林分	りんぶん	樹種、樹齢、立木密度、生育状態などがほぼ一様で、周囲の森林とは森林の様相(林相)によって明確に区別できる、ひとまとまりの樹木群とその生育地をいう。森林を区画し、調査・計画・施業・管理を行う際の基本的な単位である。
	齢級	れいきゅう	林齢(森林の年齢)を5年ごと区切ったもの。1～5年生までを1齢級、6～10年生までを2齢級、以下同様に5年生ごとのまとまりを単位とする。
路網	ろもう	森林内の公道・林道・作業道等を適切に組み合わせた道路路網。効率的な森林施業の基盤となる。	